

自己中心から逃れればこそ  
 本当の自己を持ちうる  
 ——世界平和への希求

退職者  
 こだま会報

no.67



結成20周年記念レセプション

横浜・浜風 (神奈川県会館)  
 2004・11・6(土)

わが県職労退職者会の創立二〇周年記念事業が、いま、会員のみなさんのご協力により、着実に実施に移されています。まだ事業の途中ではありませんが、やってよかった、ということを実感しています。

本会の会員数は現在、一、二〇〇名に達しており、この一〇年間にほぼ倍増しています。これはひとえに、歴代役員のみなさんのみなみならぬ努力によるものと感謝申し上げる次第です。

本会の発展にご尽力くださった元役員の方々の多くは、現在もお元気で活躍中ですが、中にはすでに幽冥境を異にされた方もいらつしやいます。初代の代表幹事であった秦謙次郎さん、副代表幹事を務められた阿部淑子さん、諸星ヒサ子さん、川村貞夫さんは時期は異なりますが、それぞれ大きな役割を果たされました。五期一〇年間に亘り事務局長を務められた青木武さんも、先年お亡くなりになりましたが、青木さんは穏やかな人柄で人望が厚く、誠実な態度で会の運営に当たり、会の発展の地固めをしてくださいました。また、会務に従事している最中に倒れ、帰らぬ人となった齊藤一悦さんのお元氣だったころの姿は、いまも私たちの臉に焼き付いています。

先人のご苦勞を偲びつつ、  
 新たな活動の前進を

私たちは、このような先人たちの努力によって築かれてきたこの退職者会を、高齢期の生活と権利を守る運動の組織として、今後さらに大きく発展させていかななくてはなりません。

わが会員は、多土済々、社会的な活動のレベルにおいても、文化的水準においても極めて高いものがあります。それを如実に示したのが、二〇周年を記念して発行した文集『こだま』です。それをひも解きますと、会員の人生の軌跡、職場体験、公務員労働者としてのたたかい、地域社会に貢献する姿、余暇活動や文化活動を楽しむ様子が生き生きと描かれており、活動水準の高さを示しています。この文集はまさに、二一世紀を担う若い世代へのメッセージのような力量に依拠して、会の活動の新しい峰を目指して努力していきたいと思えます。

いま、憲法の平和的、民主的条項を改悪しようとする動きが強まっています。これは高齢者福祉の切捨てや高齢者に高負担を押しつける動きと裏腹の関係にあります。高齢者のパワーを結集し、国民各層の人々と手を携えて、国民が平和で安心して暮らせる世の中を作るために、これからさらに大きな力を発揮してまいります。

(生方武羅夫)

# 楽しい趣味の会

趣味の会は、長生きの散歩道  
と一緒に歩きましょう!!

## ★20周年記念行事★ 紅葉の京都を堪能

京都一泊研修旅行・歴史教室

総勢14名、11月14日(日)～15日(月)に歴史教室にとつて初めての泊りの歴史散歩をしてきました。

### 第一日

清涼寺 通称嵯峨釈迦堂と呼ばれている。本尊釈迦如来は生身の仏といわれ、細身の流れるような円曲線で刻まれた美しい仏像でした。本堂からの中庭の紅葉も鮮やかでした。蛇足ですが仁王門の右側に評判の豆腐店がある。

宝篋院 ひっそりとした寺院の奥に楠木正行(正成の長男)と足利義詮(室町幕府二代將軍)の墓(正行は首塚)が二つ並んでいる珍しい光景であった。

### 二尊院 「百人一首」で名高い小

倉山の東麓にあり、釈迦如来と阿弥陀如来の二尊が祀られていた。「発遣の釈迦」と「来迎の釈迦」である。総門から黒門までの「紅葉の馬場」

が鮮やかでした。

祇王寺 奥嵯峨のひっそりとした尼寺。美しい竹林と楓、苔庭に囲まれた草庵が「平家物語」を彷彿させる。平清盛の寵愛を受けた祇王と妹祇女。母力自が祀られていた。三人の宝篋印塔と清盛公の供養塔を觀賞した。

天龍寺 世界文化遺産に登録され、必見の寺である。亀山を脊した曹源池庭園は紅葉に映え、一同しばし座して眺める。癒しのひとときでした。

### 第二日

南禅寺 堂々と聳える三門をくぐり、紅葉の中を本坊へ。狭く急な階段を登った三門からの紅葉は鮮やか。京の街は「絶景かな」と五右衛門の気分でした。本坊の優雅枯淡で品格のある方丈庭園では、一同しばし心静めるひとときでした。又、琵琶湖疎水の水道橋が寺院にとけこんでいるのが印象的でした。

永観堂 古今より詠まれてい「モミジの永観堂」といわれる古刹。放生池に映える紅葉は見事。多くの堂を渡り廊下でつなぎ、全山紅葉に染っていた。本堂で有名な「願如来」といわれる阿弥陀如来像を拝観しました。

六波羅密寺 念仏の祖空世上人開創。六体の阿弥陀を口からはく空世上人の像など仏像彫刻を觀賞する。この周辺を六波羅といい、昔は死体

置場であった由。(当時風葬が普通)



珍皇寺 寺内はこの世とあの世(冥土)の境界で、冥土に行く井戸があるという。冥土庁の役人として小野皇がこの井戸を往来していたと。その井戸を本堂入口から眺めてきた。珍しい寺です。

大谷本廟 浄土真宗本願寺派の廟。ここから清水寺への右側は、鳥辺野と呼ばれる広大な墓地が広がっています。それを俯瞰しながら清水寺へ。清水寺 あまりに有名な「清水の舞台」の清水寺。紅葉に少し早いですが観光客がごったがえしていた。舞台を支える束柱に感嘆する。音羽の霊水は時間なく素通りし、清水坂を下る途中で昼食、「ニシンソバ」を楽

しみました。

秋を三人椎の実投げし鯉やいづこ池の朝かぜ手と手つめたき  
与謝野晶子

天候にも恵まれたよい旅行でした。みなさん、又行きたいネと無事横浜に帰着しました。(湯川 勉)

## さきたま古墳群紀行

10月16日(土) JR横浜駅 8時50分発、上野駅から高崎線で、吹上駅10時53分着、バスに乗りつぎました。(所要時間1時間50分)

埼玉古墳群は、行田市大字埼玉にあり、5世紀の終りから7世紀の始め頃までに造られた9基の大古墳が群集し、国の史跡に指定されています。この地域約30万平米ありさきたま風土記の丘として整備されてきました。

古墳の中でも、丸臺山古墳は、日本で最大の円墳であり、二子山古墳は、武蔵国(現在の埼玉県・東京都・神奈川県)の一部で最も大きな前方後円墳です。また、稲荷山古墳からは、昭和43年の発掘調査の際、金錯銘鉄剣を始め多くの遺物が出土し、昭和58年に一括して国宝に指定され、さきたま資料館で展示しており、帰りに鑑賞に寄りました。



丸墓山古墳に向う

生方会員のガイドにより、古墳を間近に見ながら、古代社会の姿を偲ぶ。大規模の公共工事は、この時代にどうして作られたのでしょうか。

丸墓山古墳から稲荷山古墳へ、辿ってみて、古代人の偉大さに感心しながら將軍山古墳展示館へ。館員の案内により、1階では、「版築」という方法で、墳丘が盛り上げられていたことに驚く。2階は、実物の横穴式石室と埋葬時のようすを再現・展示。当時の力ある豪族たちは、このように死後の世界にまで、華やかな品々を携えていった、など丁寧な説明がありました。6名の参加でしたが、古代人がどんな生活をしていたか学び、まさに「温故知新」の勉強会でした。(佐藤喜治)

### 涙あり笑いあり

——古典落語を聞く会

一〇月二日(土) 午後二時より野毛横浜にぎわい座、林家たい平独演会に七名が参加しました。

たい平さんは人気抜群の若手落語家で、時期に合ったトークで私達を笑わせてくれました。また、古典落語では、涙あり、笑いありで落語の良さを本当に楽しませてくれました。(大貫多喜子)

### ◆食文化を楽しむ会

一二月二五日(木) 上野多恵子会員の御指導で今年も風邪予防の薬膳料理を実施いたしました。

参加者は年金組合の方を含め一六

人でした。

献立は、百合根入り生姜御飯、鶏肉、陳皮の中華炒め、菊花なます、きのこ汁、金銀陳皮茶、デザートはりんごとあんず、枸杞子のココナッツミルクがけでした。

高齢者にとって風邪は大敵ですが腎臓も弱り易いこともあり補腎に豚肉や鶏肉を、体の温補に葱、生姜を、乾燥しやすい季節なので潤肺に百合根、きくらげ、氷砂糖など、腎虚に山芋を、清熱に菊花、りんご、止咳に柚子等の食材を用い、生薬として黄耆(補氣)、金銀茶(スイカズラの花)、枸杞子、陳皮、五味子酢を使用しました。今回は新しいメニューのお顔も見えすっかり暖まって帰途につきました。(亀井楨子)

### 第4回 国際高齢者文化祭に集う

一〇月二六、二七日の両日、中国北京市で開催された文化祭参加と併せて、三一日までの一週間、北京・桂林・陽朔の三市を旅してきました。

この文化祭は歌や踊りなど舞台での交流だけでなく、参加各国の高齢者の実情を報告し、理解を深め合うため、開催されるもので第四

回となった今回は、日・中・韓三国に加えてモンゴル・香港・シンガポール・フランスの参加がありました。舞台への出演は、中国五五演目、韓国二四、モンゴル二二、日本は八演目で他の国は代表参加でした。

日本からの参加者百三〇名は、午前の出演で「赤とんぼ」・「草原情歌」・「幸せなら手をたたこう」の三曲を、松平晃さんのトランペットにあわせて大合唱しました。

この中で「草原情歌」は中国の民謡でしたので歌い終ると会場からア

ンコールの大きな拍手がおきるなど感動の場面もありました。

午後は日程の関係から会場を後にして万里の長城の見学に行きました。なお、会場では今回から舞台と並行してシンポジウムが開催され、各国の高齢者の生活実情と課題などの報告と交流が行なわれました。

この会議にはシンガポール・香港・フランスの代表も参加し、第五回開催地はシンガポールで二〇〇五年一月中旬に開催することが確認されました。(加藤利秋)





生方代 表幹事の あいさつ に続いて、 加瀬県職 労委員長 を始め三 人からあ いさつを いただき、 創立以来

20周年記念事業も殆ど終わった一月六日(土)、神奈川自治会館の浜風で20周年記念レセプションが開かれました。 天気にも恵まれ、来賓や、会員六〇名余りが集り、楽しい一時を過ごしました。 始めに、稲本春雄さんによる、サムエル・ウルマン作、「青春」の吟詠があり、老いに負けない生き方を確認して 開会。

# 楽しく賑やかに 20周年記念 レセプション



の会員である田中英子さんの乾杯の音頭で懇談に入りました。

途中、日頃交流のある神奈川自治労連などの団体や労働金庫などの企業、また長年の会員でユニークな活動をされている方がたのスピーチがあつて、参加者それぞれが、こだま会の20年と背景の時代に思いを馳せました。

最後のアトラクションはやはり稲本さんの居合い道演武(写真別掲)できらめく白刃に一瞬身が引き締まる気がしました。 また、のど自慢の何人かからは、カラオケにより披露があり、大いに盛り上つて、予定の時間を過ぎて閉会となりました。

(新井通子)



## 予告!! 予告!! 予告!! 薬膳十栄養学の レシピ集刊行

### 食と文化を楽しむ会

管理栄養士の上野多恵子さんの指導により、春と秋の薬膳料理を楽しみ、健康に役立てています。20周年記念として、その講義やレシピをパンフレットにまとめ皆さんに役立つようお配りします。5〜6月頃の予定です。

## 20周年記念最終行事

### かくれた滝めぐりと

### 夕日を見る旅

### —西伊豆一泊旅行—

- とき 四月七日(木)〜八日(金)
- ところ 堂ヶ島温泉・土肥方面
- とまり 堂ヶ島温泉・網元ホテルちどり

• コース

本厚木(10時出発) — 五竜の滝 —  
 柿田川湧水(昼食) — 土肥花時計  
 (足湯あり) — 黄金崎 — ホテル(泊)  
 — 恋人岬 巖福寺 — 旭滝(昼食)  
 — 裾野 — 本厚木

費用 一泊四食バス代込み

一三、〇〇〇円

申込み 2月28日(月)までに次のところへお申込み下さい。申込まれた方には、集合場所・時間など旅行資料をお送りします。

こだま会事務局(毎週火曜日)  
TEL 045-212-3179

加藤利秋(担当)  
TEL 0463-94-2693

高年齢者福祉情報  
あしたは私も高年齢者  
横浜版  
老いを考える会『諒』編

## 読む



高年齢者福祉情報  
あしたは私も高年齢者  
横浜版

横浜版

老いを考える会『諒』編

2004年9月刊

A4 142+10頁

1680円(税込み)

この本は横浜市青葉区の主婦2人が、高齢者にニーズの高い医療と福祉、生活について横浜市の情報を提供しています。

様々な実態を調べ歩き、介護保険をはじめ各種制度の利用方法のほか、孤立しがちな介護する側への支援方法が盛り込まれています。老いの入口に立つ人たちに、役立つ内容です。介護保険申請関係の資料や、各種団体のリストも豊富です。横浜以外の地域の方にも、ヒントや手掛りを与えてくれるでしょう。

(木村)

會員紹介

想い出と老後の今

横川 美代子さん



希望して芹香院へ

横浜市内の小高い木立の中に県立緑ヶ丘保養所という公務員対象の結核病院があり、私はそこに看護婦として就職しました。そこは教職員病棟、警察官病棟、消防職員病棟、県職員病棟に分かれていて、手術等の治療も行われていましたが開放的だったのでかさのある病院でした。

昭和30年代後半になり横浜での麻薬問題が社会問題化し、結核患者の少なくなった緑ヶ丘保養所の一部を麻薬中毒治療施設にする案がもち上りこれには組合を中心に全職員が反対し、結局は結核は長浜病院と合併する、麻薬中毒治療施設はせりがや園として芹香院の敷地の一部に建てる、緑ヶ丘の跡地にはこども医療センターを建てることになりました。私は通勤の便から希望して芹香院に転勤する

ことになりました。

保育所運動から婦人部へ

芹香院は今亡き川村貞夫さんの出身職場であり組合活動が活発で、私などは川村さんに叱咤激励されて何とかついていった方です。この頃から看護婦不足が深刻になり又、出産しても働きたい看護婦も出て来て、個人の自宅で皆で協力して子供を預かることから始まり、無認可保育所、職場保育所運動へと広がっていきました。

昭和40年代後半それまで県職勞の婦人部活動を担って来た芹香院の活動家が育児に入り、代りに婦人部活動経験皆無の私が分会長の説得で出ることになり、この時には組合の書記さんをはじめ婦人部の方々の大いなる助けを借りて、4年後次の方にバトンを渡すことができました。

楽しみ俳句を詠む

定年退職後暫らくは民間病院で働きましたが今は完全に言わば老後の生活に入っています。地域での新日本婦人の会の活動や趣味の会等にも入っていますが、一番良かったと思うのはこだま会の趣味の会『俳句教室』に入れていただいたことです。私が遅ればせながら俳句を始めたかと思つたのは、五七五の十七音字の中に自己の考えを少しでも表現しなかったからです。俳句を始めると季節の移り変りに常に心が向き、季語や日本語の美しさを勉強させられボケ防止になるかなと考えます。もう一つは人との出会いです。いろいろな人に出会い親しくしていただいています。又、楽しい吟行会があります。こだま句会でも時々あります。他の句会でも吟行会が計画され、私はできるだけ出かけるようにしています。こうして俳句は私の老後の大きな楽しみになっています。今後も健康で過ごしたいと思っています。



こだま俳壇 (12月句会)

新井 博美  
にはとりも地より飛ぶべし初明り  
冬の浜普陀落からのかもめとか  
白石 為康

井村 友彦  
ギヤルたちの短語連発今朝の春  
ふるさとの味を求める師走かな

高田多嘉子  
山に雲柿に四十雀初御空  
冬桜雨の箱根に淡く浮く

鈴木志げ子  
百越えし母と真向う除夜の鐘  
水仙の葉の丈伸びて花かくれ

中村 圭子  
若松に水引きかけて年迎ふ  
石油売るソング流れて年の暮

三井 光子  
書初めの筆先震える古希の年  
夜も昼も眠り千切れて師走かな

湯川 勉  
炎あまた空に鳥群れ去年今年  
熟れ柿をスプーンですくい頬ゆるむ

横川美代子  
雪が来し湯治場に我おらが春  
最後までけなげな一葉冬来る

小川 水草  
年新た喜寿に近づきする思案  
冬椿頭布新らし六地藏

山本つほみ  
地震割りし田直し重機鋏始め  
自然薯のめかし藁づと檜の葉

戦断つすべをさぐれり恵方道  
無となりゆくまで冬麗に溶けし海

## 介護保険

## 「介護保険相談」を担当して(承前)

湯川 勉(ケアマネージャー)

## 2 介護保険の現況

介護保険法制定後、5年目に入り、さまざまな問題が出ています。又、2005年の見直しにむけて政府・厚生労働省で検討作業が進んでいます。

## (1) 現況や問題点について

① 介護保険の申請及び要介護認定が法制定時より倍増しているが、介護サービスを受けている人は約50～60%である。(介護費限度額についても同様)

② 低所得者の保険料や自己負担額(原則10%)が生活を圧迫している。

③ 特別養護老人ホームの入所が困難(待機者が都市部で三ケタから四ケタ(1,000人)になる。)などサービスを受けられないことやサービスを制限して受ける(費用をけずる)などが増えている。

④ 介護報酬の変更(平成15年4月)により事業者の経営がきびしくな

り、ホームヘルプサービスの30分さきみなど、利用者も利用しにくい状況が多くなっている。

(2) 国の方針(案)として次のようなことが検討されている

## ① 介護保険の財政の対策として

A 自己負担額の10%から医療保険と同じ30%への引上げ。

B 支援費制度との統合をはかる。身体障害者、知的障害者を対象とした支援費制度が2003年4月より実施されたが、予算不足が露呈し、障害者へのサービスを介護保険並に切り下げ、介護保険財政をあてようとしている。

C 介護保険サービスの対象者を狭く、例えば要支援を対象外とする、又、施設入所については介護度3以上とするなど。

D Cにともない介護予防や疾病予防などを市町村事業として重点的に実施する。(国の補助金事業)

E 保険料徴収年齢を現行の40歳以上から20歳以上とする。

## 3 介護保険の課題

2において介護保険が、利用者や家族のニーズを充足する制度として継続して維持できるか、問題点などを簡略した。現状において制度として破綻するのではと心ある専門家の間でささやかれている。私の考える課題を提起してまとめとします。

(1) 社会保険制度であるが、福祉的視点を併せて実施

① 低所得者への保険料及び自己負担額の減免をきめ細かにする。

② 特養入所などを確保するため国自治体の責任で措置をする方策を作る。(現行老人福祉法で可能)

③ 国、自治体の財政の責任をきびしく。

(2) 専門家の養成とサービスの充実

① 在宅サービスの拡充と施設入所の確保

② 地域を中心としたサービスのネットワーク化をはかる。

③ 介護職員(ケアマネージャー、ホームヘルパーなど)が、誇りを持ってサービスできる体制を作る。

④ 痴呆老人への対策の充実をはかる。家族への援助をきめ細かに。

⑤ 老人や障害者が地域で生活できるコミュニティを作っていく。

(3) 介護保険制度と保健・医療・諸福祉などとの有機的連携

① 疾病予防・介護予防・リハビリテーション事業などを充実する。

② 介護保険適用外(元気老人など)や障害者なども含めた事業の充実をはかる。

③ サービス事業所の評価と養成をはかる。財政援助も考慮しながら。

④ 施設入所の確保と共に在宅サービスの住宅対策の充実をはかる。

⑤ 総合的な介護サービスセンターを地域に作りネットワーク化を。

## 最新情報

国は、平成18年度より実施に向けて介護保険の見直し案を検討中です。17年2月の通常国会にそれを提出する予定です。

具体的には社会保障審議会介護保険部会で検討されています。2004年10月までの部会の資料で予想されるおもな見直し案を以下記し、この報告を終ります。

## 1 介護保険料

介護認定者及び各種サービスの受給者増による財政悪化を理由に、現行の40歳以上からの徴収を20歳以上にすることを検討している。現行制度で2012年度の高齢者(65歳以上)の保険料1人月額6,000円、20歳以上になるとそれが1人月額3,900円になるなどの試算をしている。(次の頁の3段目に続く)

保健情報

健康野菜 ヤーコン

糖尿病・高血圧・動脈硬化  
老化予防に役立つ

「蕎麦打ちと天麩羅」9月の料理教室で初めての食材に出合いました。かき揚げに入っていたヤーコン。珍しいので生産者の叶井進一会員からヤーコンについて聞きました。

栃木に住む娘から、その地でブームになっているヤーコンの苗を送ってきました。5年前のこと。始めはどう育ててよいか分らず、施行錯誤でした。酷暑の去年は、よいものが出来ました。

種芋を3月に植え12月頃に根についた芋を掘り出します。南米産(別掲)で2mほどの高さには、葉はゴボウのような大きさに育ちます。その根はちょうどお芋。勢のある植物です。

ヤーコンは生で食べてよく、サラダ、酢のあえ物など。生食の時には酢水にさらすのがよいとか。漬け物は、我家では味噌漬けにしています。また、油とよく合いかき揚げ、油炒めがおすすすめです。

また、大きなハツパは乾して碎けばお茶に煎じて使えます。つまり、

ヤーコンは薬草ということでしょう。苗は芋とは別に根っ子にある芽芋を育てます。この種芋が入手困難で、育った苗を自宅前に置いて「ご自由にどうぞ」としたら全部なくなっていました。

物を作ることが好きで、同好の人に喜ばれるのは、また嬉しいものです。

興味のある方はどうぞ連絡して下さい。叶井進一 TEL 045-803-3713

(注)ヤーコンは南アンデス産のキク科の生命力旺盛な植物。サツマ芋に似ているが澱粉が全くなく、掘りたてでは10%のフラクトオリゴ糖が含まれている。この糖により腸内の健康化、便秘やコレステロールの改善に役立つ。また、ポリフェノールも多く、活性酸素を除く働きがあり、生活習慣病や老化予防に効果が期待される。(木村武子)



見事なヤーコンを持つ 叶井さん

- 2 サービス受給年齢
  - 1 に関連して10歳〜64歳も含めて見直す。(現行、原則65歳以上)
- 3 障害者支援費制度との調整
  - 平成15年度から実施された障害者の支援費制度の大幅な財源不足を理由に当初、介護保険財政との統合を提案していたが、支援費制度が発足したばかりであること、障害者福祉の後退になるなどの理由で今回は見送られる模様です。
- 4 介護度の軽い高齢者の介護サービス
  - 要支援、介護度1の在宅サービス受給が増加していること、にもかかわらず介護度の改善がないことから従来の介護サービスから介護予防中心の(例として筋トレなど)新予防給付に切り替える。軽度の方は、従来のホームヘルパーの訪問介護がなくなる予定です。

- 5 特養などの施設入所者からホテルコスト(食費や居住費)を徴収施設に入所者の介護保険での費用が、在宅サービス受給者の費用より2倍かかっている不公平を是正する理由で利用者負担として徴収する。(従来は、食費のみ) 低所得者(基礎年金水準月額6.6万円以下)1割負担を含め2.5万〜9.5万円を試算している。
- 6 新しいサービス体系の確立
  - 地域密着型サービスの充実にして、一定の地域に小規模施設(定員30人未満)を作る。地域夜間訪問介護などを実施する。市町村独自の計画と実施として。(終)

ボケ防止三ヶ条

年をとって脳が老化するのは当たり前ですが、ボケない為には脳の前頭前葉部を活性化することが大事といわれています。頭を働かせればよいのです。

- ① 仕事をやる
  - ② おしゃべりをする
  - ③ 手で文を書く
- 考え、感じ、脳を刺激することが大事でしょうか。(木村)



# 高齢期運動

## 「04年輝け高齢期・神奈川のつどい」に参加して

つどい」に参加して

「2004年輝け高齢期・神奈川のつどい」が11月8日、新築されて間もない「かなつくホール」(東神奈川駅前)で開かれ、元気な高齢者が多数集まり、午前中は学習し、午後は踊って・歌って楽しみました。

午前の部では、中里龍夫実行委員長のあいさつの後、「神奈川県高齢期運動の過去・現在・未来」について、3人の語り手が発言されました。続いて5人の活動家から次のような各分野の報告がされました。

- ① 敬老バス有料化反対運動の経験
- ② グループホームでの介護体験
- ③ 高齢者の医療を通してみた問題点
- ④ 年金改悪反対運動
- ⑤ 憲法9条、25条を守り抜くた

最後に、「改憲論の新しい動向―若者と若手政治家」と題して、横浜国大教授・北川善英さんの講演がありました。

「改憲論は90年代後半から9条を含む憲法全体の見直しに変化した。改憲勢力は与党(自公)と野党第一党(民主)で衆参両院の圧倒的多数(2

／3以上)となり、戦後初めて改憲の発議が可能となった。財界3団体青年会議所、マスコミの積極的な改憲推進動向と米国の世界戦略上からの圧力が改憲論台頭の要因だ。」

改憲論の新しい動向を的確につかみ(学習し)、改憲を許さない運動への積極的な参加が、いま緊急に求められていると感じました。(日原 輝)

### ※手作り文化祭に集う※

第10回神奈川県自治労連退職者会の手づくり文化祭が04年10月30日(市)従会館にて開催されました。「ここへ来れば昔の仲間に出会えると1年に1回の集いを心待ちしてました。」

と三々五々会場に集い、オデンを食べ、酒、ビールで楽しい語り合いの輪が広がります。更に舞台では唄に踊り、民謡三味線、尺八演奏など、又、着物の着付、現代風の帯結び、リフォームファッションショー紹介あり賑やかでした。別室の展示コーナーでは、切り絵、写真、編物、お花、書道、絵画、俳句等力作が所狭しと色鮮やかに展示されました。当こだま会から綾瀬市在住の遠藤正子さんが8号のすばらしい絵画を出品され、会場の一角で見る人の目を楽しませていました。(叶井進一)

# 9の日行動開始

## 憲法を守り生かす 運動を職場で地域で

◆「改憲」「論憲」「創憲」など憲法改悪の動きが急テンポで進行しています。我が松沢知事も今年の2月県議会で「自衛隊のイラク派遣・憲法改正」容認発言をしています。

◆改憲論は「日本文化」「環境」「地方分権」等々、様々な装いで展開されていますが、この本質は憲法第9条の改悪。2007年をターゲットに、改憲のための国民投票法案や国会法改正案などを準備することです。

◆これに対し、大江健三郎氏など著名な9人が呼びかけた『九条の会』や佐高信氏などの『憲法行脚の会』など、憲法9条を守り生かす草の根運動が全国各地で進んでいます。県内でも地域の『九条の会』結成が進み、10月29日には『憲法改悪反対・神奈川県共同センター』が発足。憲法9条を世界に広げようと『9の日行動』などを呼びかけています。

◆12月8日、9日はその第1弾として、横浜や川崎、藤沢、鎌倉、平塚、西湘などで集会やデモ行進がおこなわれました。

◆2月25日には、内橋克人氏や小山

内美江子氏などが呼びかける『九条の会を聞く県民の集い』(県民ホール2500人規模)が予定されています。憲法学習など、憲法を暮らしに生かす運動を職場から進めていきましょう。

『神奈川県職労』04・12・15より

### 編集 後記

★インドネシア・スマトラ島沖の地震に起因したインド洋大津波の被害の大きさは、全世界を驚かししました。自然の、地球の怒りとさえ思えます。

★24歳で亡くなった作家樋口一葉がお札の顔となりました。社会を庶民の眼で描いた、懐かしい人です。

★年金生活はますます苦しくなってきました。首を締められそう。人間らしく平和な暮しが大事。生活そして憲法を守る、今年の課題です。

★風邪を引かず健康第一に。(木村)

編集・発行  
 県職労退職者こだま会  
 発行人 生方武羅夫  
 発行日 2005.2.1

No.67

〒231-0023  
 横浜市中区山下町57-1  
 神奈川県職労内  
 TEL 045-212-3179(代表)